

愛知県立芸術大学施設整備ビジョン検討会 第1回 会議録

- 1 開催日時
平成22年7月11日（日）午後1時から午後4時30分まで
- 2 場所
愛知県立芸術大学 管理棟 3階 大会議室
- 3 出席者
別添出席者名簿のとおり
- 4 その他
施設見学（約1時間）を実施

【概要】

1. 開会

○磯見学長より検討会開催のご挨拶。

（挨拶趣旨）

本学は昭和41年に開学し、その前年より校舎が建設された。当時に比べ、学生数の増加、大学に求められることの変化など状況の変化に対し、教育環境に支障がでてきた。芸術活動は学生個人の創作力、創造力であり、その個人の努力を支える環境をつくる事、個人の個性を尊重しどれだけ引き出せるかが大学の役割である。小さな大学であるが、ナンバー1ではなく、個人の個性を持ったオンリーワンを目指す。そのためには毎日の努力とその力が発揮されることが基本である。近年、学生たちは力をつけてきており、演奏会では見事な演奏に感動するし、著名なギャラリーからも県芸大の評価は高くなってきている。学生たちの歩みをサポートすることが大学の使命であり、全国から集まってくる人たちに最良の環境を与えることが必要であり、これが施設整備の基本である。学生たちが力を発揮できるような施設環境になることに力を貸していただきたい。

○竹内事務局長より配布資料確認。

（資料修正）

県立芸術大学 水津委員は欠席となっているが出席へ修正。

本日欠席の西澤委員からのご意見資料は新しいもの差し替え。

○委員の自己紹介。

奥村委員の代理は近藤高史氏。

○竹内事務局長より「大学案内2010」を用いて大学の沿革・組織について説明。

現在の学生数は約千人。女子学生の割合は8割弱。

2. 説明事項

（1）愛知県立芸術大学施設整備ビジョン検討会について

○竹内事務局長より「資料1」、「設置要綱」を用いて説明。

○質疑

近藤代理：奥村委員の代理として3名を委員会に参加させて欲しい。

磯見座長：委員会の趣旨からして適切ではない。3名の意見をまとめて欲しい。

近藤代理：奥村委員からの書面を提出させて欲しい。

磯見座長：後刻、各委員へ配布する。

近藤代理：3名が交替で発言することはだめか。

磯見座長：1名でまとめていただきたい。

江口委員：私は美術学部卒業生3千人の代表として出席している。同じことを要求したくなる。

谷口委員：事前に資料をもらえるか、と言うことではないか。西澤委員も同意見だった。

森 委員：参考人として発言してもらうことは可能か。

竹内委員：参考人は他分野でご意見をお聞きする際にお問い合わせする。奥村委員の代理者は1名でお願いしたい。

○施設見学について竹内事務局長より説明。所要時間1時間を予定。

○質疑

近藤代理：意見交換の前に施設をまだよく見られていない方がおられるので先に見学をお願いした。当初の配置図を持ってきたので、説明者として3名が説明したい。ただし、85年以降のことは説明できない。

戸山委員：本日の見学会では、現在使っている施設を見てもらうことが主旨。

磯見座長：現状を見ていただくことが目的。

※施設見学

引き続き説明事項

(2) 愛知県立芸術大学に係るこれまでの経緯について

○竹内事務局長より「資料2」「愛知県立芸術大学の現在の状況」を説明。

○質疑

堀越委員：緊急整備対応指針は全体に関するものか。

竹内委員：そうです。

谷口委員：施設整備ビジョンを検討するとあるが、また、新たにマスタープランを作成するのか。

竹内委員：県からの要請でビジョンを作成する。それに沿って整備いただけるかは県の判断による。

近藤代理：今日の見学の主旨は何か。マスタープランは平成20年3月とあるが、県が策定業務発注したものか。

竹内委員：法人が県に提出したもの。

近藤代理：それ以前の平成19年10月16日に教員作品展で発表されたのはどういうものか。

長谷委員：途中報告として教員や学生に周知する機会として展示した。整備委員会で検討した途中段階のものはあるが、マスタープランは最終的に20年3月の資料である。

近藤代理：初めて出したものか。

長谷委員：途中で整備委員会が出したものがある。

近藤代理:10月16日の内容はこれとは違うが、あれが日建設計と作成したキャンパス計画か。

長谷委員:構想である。

近藤代理:2007年構想として「計画支援」で日建設計と一緒に作成したときのいきさつをお聞きしたい。情報がほとんど学内でも知らされていないと思われる。

なぜマスタープランを今回考えることになったかわからない。何が問題でマスタープランが先に進めなかったか教えてほしい。

竹内委員:新しいビジョンを出してもらおう委員会であり、過去の資料を掘り下げる必要はない。次の議題で今後のコンセプトを議論してもらおうつもりである。

近藤代理:たとえば「整備基本計画コンセプト平成20年3月」と「施設整備基本構想2007平成19年10月16日」と内容が違うが、何が問題でこうなったのかそれぞれ正確に説明してほしい。

戸山委員:マスタープラン、コンセプトはこれ(平成20年3月)以外に知らない。法人としてまとめたものはこれだけだ。

福本委員:年度の途中に県に提出して音楽学部棟が進んだ。まとめとしてはこの年度のまとめと理解している。

○竹内事務局長から西澤委員の意見を説明し、質問に対して以下の回答。

老朽化等については資料にも示している。教育研究活動に支障をきたすことや学生の安全確保が難しいと言う原因は、老朽化以外にもいろいろな要素が考えられる。ある建物は耐震診断結果がBとなっていること、音楽学部の学生が楽器の搬送の際に奏楽堂の階段で怪我をしたりしている。

吉村先生の設計理念の継承の認識については資料に記載したつもりである。

作成年月日から県の緊急整備対策指針がマスタープランの指針となる役割を果たしていないとの指摘であるが法人としては説明する立場にない。

ビジョンはマスタープランに代わるものであると認識している。

○竹内事務局長から資料3について説明。ビジョン検討のコンセプトはマスタープランのコンセプトと同じものとしている。今回のご意見で見直したいと考えている。

○質疑

堀越委員:マスタープランは県が認めなかったとすれば、同じコンセプトで良いか。

竹内委員:マスタープランの施設計画を県は認めていない。ビジョンとしてはこの施設計画を検討してもらおう。コンセプトに関して県が認めていないとは考えていない。

磯見座長:県が認めなかったのは施設の更新計画であり、コンセプトは認めてもらっている。

堀越委員:緊急整備対策指針を見るとコンセプトも見直したほうが良いのではないか。

谷口委員:名大でも4回マスタープランを見直している。マスタープランには大学としてのビジョンなど変わらないものと施設整備のように変わるものがある。ハードウェアは変化しやすいので二段階に分けて討議してはどうか。

磯見座長:コンセプトは見直すべきとのことなので次回見直したい。

近藤代理:コンセプトを検討するには今までのことを正確に教えていただかないと次に進むのは難しい。学校でどんなことを考えられてこられたか今までの資料、データを出してほしい。

それぞれの建物についても、どういうふうに改修されたか費用を含めて今までの資料を全部出してほしい。たとえばさきほど長谷先生のほうで防水工事をやったけどあくる日からまた漏ってしまったとのこと、それではお金を払う必要がない。コンセプトというのも吉村イズムの継承では伝わらない。ただ継承するだけではこの大学を支えきれないので日々のことを的確に対応していかなければならない。日々の作業が対応できなければコンセプトを話すのは意味がない。

この大学に施設課がないという基本的な問題があり、コンセプトを考える上で課題である。「オンリーワン」の意味も正確に教えてほしい。

磯見座長：次回に詳しく説明したい。

福本委員：近藤先生の過去の資料の話はわかるが、現状を踏まえて判断しないと仕方が無いのではないか。

谷口委員：公立の学校の維持管理は対処療法になりがちだが、中長期計画と資金計画が必要。県は施設をつくるが、法人がそれを受け継ぎ維持管理するための仕組みを作る必要がある。これもビジョンの1つであろう。

磯見座長：それが我々の課題である。

近藤代理：「十分なメンテをしてこなかったことが現状、これは仕方がない」ということだが、問題があるときにすぐ対応できるようにされるべきではないか。

磯見座長：どういう対応をするかは状況による。

近藤代理：プロと相談できる体制、日々の対応ができる体制を作らないといけない。

たとえば、音楽の学生が4年間でいろいろ改修の要求をしても、そのつど何も対応してもらえなかったのが今のレッスン棟の現状である。防音ドア一つとっても、あれは当初お金がなくて木でやるしかなかったが真っ先に改修していかなければならない。一つ一つ対応できることなので、それすらされないのが問題だ。コンセプトはコンセプトとし、今ある問題にもその都度対応していかなければ何も完結しない。

金田委員：現施設は県所有であり、大規模な修繕は県にやっていただくことになっており、今の法人では対応できない。一刻も早く施設を法人所有にして法人の意思決定でメンテナンスできるようにする必要がある。ただし、財源の問題がある。

戸山委員：音楽棟については防音扉だけの問題ではない。当初からなぜこれほどまで機能を見捨てた建物になったかが問題。当時、設計者は東京芸大の教官であったと聞くが、同じ大学内に音楽の教育研究施設があったにも関わらず、その施設を見、長所や不具合な点などを参考にして建てられたとは全く思えないことが不思議でならない。

近藤代理：東京芸大には施設課がある。1号館は奥村が担当したが、施設課が耐震も防音他も、先生方から言われる点をその都度改修してきている。今はほとんど改修し、建物と建物の間を増築し、あたかも新築のように見える。既存を壊して立て直した改築はない。この愛知芸大でもできる。当初桑原知事から依頼を受けて箱しかできない厳しい予算でやったが、その都度改修して維持していかななくてはいけないのに、先生や学生たちが要求してもいまだにやられないのが現状である。

竹内委員：保守については予算の裏づけが大事。5千～1億円の予算をかけており、簡単なものは法人でもやっており、整備の体制が無いわけではない。資料はあるので提示した

い。

堀越委員：学生・教職員の方が日常的に使う家のような感覚で、ソフトも含めてやっていくと使い方も変わってくる。このことも是非コンセプトに追加して欲しい。メンテと言うハードウェア的な面だけではなく、使う側のソフトウェアがコンセプトに入っていると分かりやすい。お金がかかることを県にも理解していただければ。

○本日のまとめとして1人3分で有識者のご感想・ご意見を発表していただく。

近藤代理：奥村委員より預かった図面と資料を提出したい。

非常に疑問に思うが、「概要（4）」で「第1期は、平成24年度までに整備が完了する内容として、緊急に着手すべき2施設（音楽学部棟、講義棟・大学会館）を先行して新築する」とあるが、平成24年度までに整備が完了する内容として音楽学部棟だけでなく、講義棟・大学会館を新築するというのももう決まっているのか。

磯見座長：その当時の計画である。完全には決まっていなくても計画である。

近藤代理：これは当初のキャンパス計画の案そのものである。なぜこういう形で講義棟と大学会館がここに出てくるのかわからない。今回の基本設計の説明がないとマスタープランの検討もできない。この基本設計はあるものとして検討しないといけないのか。

音楽学部棟をここに建てることにとっても問題がある。

また、今回の見学会で学生寮はなぜ見学しなかったのか。

新学生寮とまだ使える学生寮と二つあるのはなぜか。

磯見座長：県の方で学生寮を廃止するという方針であった。

近藤代理：学校では、職員の福利厚生施設は持てないことと耐震上問題があるので廃止すると説明された。ところが県は福利厚生上も職員のものではないので持てると言っている。また、耐震上も話が違う。女子寮を建替える理由が理由ではなかったわけである。

磯見座長：我々はあの学生寮を維持したいと思っていた。県が学生寮は認めない、学生寮は廃止すると我々のところへやってきた。

近藤代理：こちらで県の担当に聞いたら、学校でいらないといつてきたから壊すしかないとのことであった。

磯見座長：それは絶対に間違いである。寮を所管していたそのときの学生部長がいるので聞いてほしい。

天野委員：当時、学生部長として寮にかかわっていた。学生寮は廃止すると県から言われたが、全国区の大学であるため必要であることを県に何度もお願いをした。旧学生寮は料金が安い学生寮であったが、最悪の環境であった。まかない前提で建てた寮であったが自炊であり、トイレの近くに水場があり、風呂は直ぐにカビは生えるし、6月になると熱中症が多発していた。だから廃止しないで建替えて欲しいとお願いした。

現在は新学生寮ができて大変うれしく思っている。

谷口委員：大学はどんどん変化すべきなのに県芸大が今まで変わらなかったことが不思議である。大事なのは後から造る建物がどう吉村イズムを承継できるか建築家の力量であろう。

堀越委員：使い勝手が悪く、古くなった、と言う現実はあるが、もう少し良く見極めてうまく転用することも含めて、できるだけ吉村建築を残す。1つの建物を残す例はあるが、

複数の建物、キャンパスを残すことが意義深い。緊急にやらなければいけないことはわかるが、また40年後にやり直さなければいけないのでは困る。

江口委員：建物以上に学校の有り方、芸術のあり方に危機感を持っている。建設時のままで良いのか。作品の大型化に対応できるのか。50年前の枠組みで良いのか。マルチメディア、アニメ、デザインなどファシリティだけではなくビジョンを組んで欲しい。

菰田委員：先週、音楽学部同窓会の役員会を開催し、発言内容をメモにした。音楽学部同窓生を代表し現在の音楽学部棟の改築を強くまた早急に望む。

森 委員：生徒はお客様である。学生のために何が一番大事か。卒業後も活躍できる大学であって欲しい。また、学生にとって大事なものであって欲しい。一番衝撃的なのは奏楽堂であり、ありえない現状。耐震性、空調、音などのほか搬入搬出も大変そうである。学生が増えてきたので手狭なのではないか。芸術として素晴らしいものと機能として正しいものは別。何を残し、何を新しくするかが重要。

学生代表：昨年音楽部の学生にヒアリングした時に気になった。音楽をするために大学に来たのに思い切り音楽ができない。この大学に愛着を持っている人も多く居る。ここが芸大であることははっきりしており、自分の感覚を受け止め刺激してくれる大学であって欲しい。他の学生はこのような話を聞く機会が無い。計画説明の機会を頻繁にしていただきたい。

磯見座長：本日は長時間にわたりありがとうございました。

○竹内事務局長より次回以降のスケジュールが報告された。

第2回 7/15 (木) 10:30～

第3回 7/26 (月) 10:30～

第4回 8/6 (金) 13:00～

なお、7/17 (土) 13:00～15:00 一般者見学会を開催する。

以上